

もくじ

- ・ ヴェニスしょうにんの商人

しょうにん
ヴェニスしょうにんの商人

げんさく
原作： ウィリアム・シェイクスピア

イラスト： しらい ゆうこ

へんしゅう
編集： YellowBirdProject

イタリアの都市・ヴェニスと しは『水の都』と呼ばれ、
ふる古くから港町として栄えていました。このヴェニスに、
 『アントニオ』という、貿易商ぼうえきしょうの男おとこがいました。
 アントニオは商売上手しょうばいじょうずで、人柄ひとがらもよく、誰だれからも
あい愛される男おとこでした。

ある日ひ、アントニオの元もとに、友人ゆうじんの青年せいねん
 『バッサニオ』が訪たずねてきました。

「こんにちは、アントニオ。実じつはあなたに、お願ねがいが
 あってきました」

「なんだい、バッサニオ。君きみの頼たのみだったら、
 なんだってきいてあげるさ」

「実じつは、ぼくは『ポーシャ』という貴族きぞくの娘むすめと、結婚けっこん
 を考かんがえています。そのための結婚資金けっこんしきんを貸かして欲ほしい
 のです」

「なるほど。いくら必要ひつようなんだ」

「はい。3000ダカットです」



5

「3000 ダカットか・・それはかなりの大金たいきんだな」

「やっぱり、無理むりですよね・・」

「いや待まて。確たしかに今手元いまてもとにはないが、その金かねを
貸かしてくれそうな者ものに、心当こころあたりがある」

「え、本当ほんとうですか！」

「ああ。だが、あいつはかなりのくせ者ものだ。

バッサニオ、私わたしと一緒いっしょにきてくれ」

ふたりふたりが向むかったのは、『シャイロック』という男おとこの
屋敷やしきでした。シャイロックは町まちの商人しょうにんなどに金かねを貸かし、
高たかりしりしをとる高利貸こうりがしで、アントニオとは仲なかが悪わるく、
よく言いい争あらしいをしていました。

「・・なるほど。いいだろう。3000 ダカットを
いまいま貸かしてやろう。それいっさいも一切利子りしはいらん」

なぜかシャイロックは、あっさりへんじと返事へんじをしました。

